



みやぎの普及

普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

# みやぎの 7月号

## 農業普及現場

NEWS LETTER No.185 2022.7

紹介内容 (6/1~6/30)

### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 仙台農改：令和4年産麦現地検討会が開催されました
  - 気仙沼農改：いちご生産者の栽培技術向上に向けた視察研修会を開催しました
  
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 石巻農改：石巻地区4Hクラブ6月青空市の開催
  - 仙台農改：仙台農業士会総会が開催されました
  - 大河原農改：ワイナリー設立を目指して
  - 大河原農改：仙南農業士会第1回役員会を開催しました
  - 石巻農改：令和4年度石巻農業士会通常総会・歓送迎会の開催
  - 大崎農改：大崎4Hクラブが大崎地域の小学生（親子）を対象に農業体験を開催しました
  - 大崎農改：担い手から聞き取り調査を行いました
  - 亘理農改：関係機関とともに認定新規就農者サポート巡回を行いました
  
- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
  - 亘理農改：第1回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
  - 仙台農改：アグリテック活用農業推進セミナー（自動操舵システム編）が開催されました
  
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
  - 登米農改：JAみやぎ登米ピーマン栽培現地検討会が開催されました
  - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました
  - 仙台農改：仙台地方農業振興推進会議を開催しました
  - 亘理農改：JAみやぎ亘理いちご育苗講習会を開催しました！
  - 亘理農改：名取市花卉生産組合が生花店と連携してカーネーションの産地表示販売に取り組みました
  - 石巻農改：関係機関一体となって園芸特産振興を図ります
  - 栗原農改：抑制かぼちゃの栽培講習会が開催されました
  - 栗原農改：栗っこズッキーニ現地検討会が開催されました
  - 美里農改：日本なしの防除講習会及び摘果研修会が開催されました
  - 栗原農改：「くりはらマルシェ」ズッキーニ大好評でした
  - 気仙沼農改：南三陸町でシャインマスカット栽培研修会を開催しました
  - 亘理農改：なとり・ぐるっと親子講座カーネーションアレンジメント体験が開催されました
  - 亘理農改：JA名取岩沼ハウス胡瓜部会・抑制胡瓜栽培講習会を開催しました！
  - 大崎農改：みやぎきどどんこ館で花きの新品目作付についての研修を行いました
  - 栗原農改：ズッキーニの出荷査定会が開催されました
  - 気仙沼農改：クロマツ栽培の現地指導会・交流会を開催しました
  - 栗原農改：元気くん市場仙台南店において、栗原ズッキーニをPRしています

- 美里農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会栽培講習会が開催されました
- 栗原農改：抑制きゅうり栽培講習会が開催されました
- 石巻農改：オリーブ栽培指導が開催されました
- 亘理農改：山元地区野菜生産出荷組合芽キャベツ栽培講習会を開催しました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

- 大崎農改：令和4年産水稻の生育調査が始まりました
- 石巻農改：子実用とうもろこしの試験的な栽培を進めています
- 美里農改：「吟のいろは」通信を発行しました！
- 仙台農改：令和4年度仙台地方米づくり推進本部会議が開催されました
- 登米農改：迫稲作経営部会の第1回現地検討会が開催されました
- 美里農改：穂水分測定で、小麦の適期刈取を支援
- 大河原農改：飼料用作物展示ほにおける展示が始まりました

⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 石巻農改：品質の高い大豆や大豆種子の安定生産を支援します！
- 石巻農改：石巻市河北上品山牧場にて牛の入牧が始まりました！
- 気仙沼農改：酒米サポーターズクラブの田植え体験会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- 気仙沼農改：どんなアートになるか楽しみです
- 大崎農改：色麻町のシャクヤクの指導を行いました
- 仙台農改：令和4年度鳥獣被害対策に係る仙台地域連携会議を開催しました
- 登米農改：登米市沢田集落と石巻専修大学との交流会が開催されました

② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 大崎農改：「スマート農機の現地講習会」が開催されました
- 石巻農改：麦の収穫時期の現地検討会が開催されました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○令和4年産麦現地検討会が開催されました 令和4年6月13日 仙台農業改良普及センター



令和4年5月27日（金）にJ A新みやぎあさひな統括営農センター主催で「令和4年産麦現地検討会」が開催されました。検討会には小麦生産を行う4経営体が参加し、情報交換等が行われました。

当普及センターからは、小麦の生育状況や赤かび病防除について説明し、J A新みやぎあさひな統括営農センターからは、適期刈取りの目安について説明がありました。また、小麦の刈取り予定や乾燥調製施設への運び込み等について、生産者への聞き取りも行われました。

今回は悪天候のため、残念ながら現地ほ場での検討は中止となりましたが、生産者や関係団体で情報共有が行われ、有意義な時間となりました。

#### ○いちご生産者の栽培技術向上に向けた視察研修会を開催しました 令和4年6月20日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年6月8日、いちご生産者の栽培技術向上を目的として、県農業・園芸総合研究所で視察研修会を行いました。研修会にはプロジェクト課題の対象者のうち、気仙沼市階上地区の生産者2名が参加しました。

初めに、同研究所の野菜部イチゴチームの尾形研究員から現在行われている試験研究について説明をいただきました。県オリジナル品種の育成及び木質バイオマスボイラーを用いた栽培など、先進的な取組に対して生産者は興味を持ち、品種特性及び導入コストについて研究員と活発な意見交換が行われました。また、生産者が現在抱えている個々の課題について、研究員から具体的なアドバイスがあり、生産者は

非常に納得した様子でした。

研究員からは、採苗から活着に向けての水管理や花芽分化を促進させるための施肥管理は極めて重要であり、加えて定期的な防除作業の励行が次作の収量向上に繋がることを説明いただきました。生産者は自身の栽培管理と比較し、改善が必要な点について整理しているようでした。気仙沼農業改良普及センターでは、いちご生産者の栽培技術向上に向けて、引き続き支援していきます。

### ②新たな担い手の確保・育成

#### ○石巻地区4Hクラブ5月青空市の開催 令和4年6月3日 石巻農業改良普及センター



5月31日（火）午前11時30分から午後1時30分まで石巻合同庁舎ロビーにおいて、石巻地区4Hクラブ5月青空市を開催し、若手農業者のクラブ員が栽培した新鮮な野菜（いちご、きゅうり、トマトなど10品目）を直売し、消費者との交流を行いました。収穫がまもなく終わるいちご（紅ほっぺ）は試食で「甘くておいしい！」と人気が高く、朝穫りしたきゅうりやブロッコリーなどは新鮮で安いと好評で、一般県民の方や合庁に勤務する職員など約130人のお客様が訪れ完売しました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、アクリル板衝立や手指消毒、レジスターによる会計の迅速化など対策を講じながら青空市を開くことができました。

現在、石巻地区4Hクラブは、石巻市と東松島市の農村青少年が次代の農業を担う知識と技術の習得を図るため、クラブ員13人で情報交換や研修、青空市など自主活動を行っています。

○仙台農業士会総会が開催されました  
令和4年6月13日  
仙台農業改良普及センター



令和4年6月7日に仙台市内において仙台農業士会総会(会員21名)が開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大により書面開催が続き、今年は3年ぶりの対面による開催となりました。

総会へは9名の会員が出席、委任状8名の提出があり、すべての議案が承認されました。

執行部からは、研修会等の活動について、活動再開の意向が示されました。新たな会員が4名(指導農業士1名、青年農業士3名)加わったこともあり、活動内容等について活発な質疑応答が行われました。普及センターも事務局として、地域の指導者である農業士の資質向上のため、研修会等の活動が円滑に実施できるように、役員とともに準備を進めてまいります。

○ワイナリー設立を目指して  
令和4年6月14日  
大河原農業改良普及センター



令和3年3月に七ヶ宿町で新規就農した荒井謙氏は、自らが理想とするワイン醸造を目標に、ワイナリー設立を目指しています。

これまで1,500本の醸造用ぶどうの苗木を定植し、昨年は約50kgの果実を収穫することができ、収穫したぶどうは仙台市内の秋保ワイナリーに委託醸造、自社ブランド初のワインを販売し、ほぼ完売と売れ行きは好調です。同氏が営農開始に至るまでは、農地や資金の確保など数々の困難に直面しましたが、現在は計画に基づき順調に営農しています。

当日はワインに適した果実品質を目指して、誘引作業に取り組まれており、これまでの生育も順調とのことです。

普及センターでは、新規就農者の定着に向けて、継続的な支援に努めてまいります。

※荒井氏の詳細はこちらをご覧ください。  
(自社HP) <https://www.yuzfarm.com>

○仙南農業士会第1回役員会を開催しました  
令和4年6月21日  
大河原農業改良普及センター



6月17日に仙南農業士会第1回役員会を開催しました。

前年度までは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、活動規模の縮小や研修会等の中止が続き、農業士の活動が制限されていました。

今年度からは、県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みつつ、コロナ禍前と同様の事業計画を考えています。

7月の総会に向け、研修会や他地区との共同活動など役員から活発な意見が提案されました。

○令和4年度石巻農業士会通常総会・歓送迎会の開催  
令和4年6月21日  
石巻農業改良普及センター



6月10日(金)に石巻市内において、令和4年度石巻農業士会通常総会・歓送迎会が開催され、会員ら21人が参加しました。

はじめに、齋藤会長から世界情勢の急激な変化、食料等の価格高騰により、農業や農業士活動への期待が高まっており、コロナ禍に負けず事業を行いたいと力強い挨拶がありました。

次に、普及センター所長から農業士活動へのねぎらいと農業振興や後継者育成、経営改善、技術革新の牽引役としての活躍、会の発展を祈念する祝辞をいただきました。

議事は、令和3年度事業報告並びに収支決算を含め、4件上程され、全て承認されました。

総会后、歓送迎会を開催し、青年農業士を退任する

阿部氏へ知事感謝状等の授与、会から記念品と花束の贈呈、記念撮影などのセレモニーを行いました。

阿部氏は、平成23年の就農直後に東日本大震災で被災。ミニトマトやきゅうりを栽培し、4Hクラブ会長や青年農業士を務め、若手農業者のリーダーとして活躍されました。

昨年の歓送迎会以来半年ぶりの懇談では、各農業士や職員が「今日は一粒万倍日で運が良い日」「指導農業士として帰って来てほしい」など励ましや近況等をスピーチし、阿部氏の卒業を祝いながら有意義な情報交換を行い、懇親を深めました。

### ○大崎4Hクラブが大崎地域の小学生(親子)を対象に農業体験を開催しました

令和4年6月22日

大崎農業改良普及センター



大崎4Hクラブが、令和4年6月5日(日)に大崎生涯学習センターとともに「親子でいっしょに農業体験&家庭菜園講座、えだまめを育てよう」を開催しました。大崎地域在住の小学生とその親を対象に、農業へ興味を持ってもらうことや、食育を目的として毎年取り組んでいるイベントです。

今回は、親子19組、約40人がえだまめの種まきと夏野菜の定植を行いました。イベントに参加した親子は4Hクラブ員から、えだまめの種のまき方や苗の植え方の説明を受けながら、いきいきと作業に取り組んでいました。

今後は、管理作業や家庭菜園講座を行い、8月には、収穫体験を行う予定です。

大崎農業改良普及センターでは、今後も大崎地域の青年農業者の支援に取り組んでまいります。

### ○担い手から聞き取り調査を行いました

令和4年6月22日

大崎農業改良普及センター



普及センターでは、昨年度から大崎市岩出山下真山地区において地域営農に関するプロジェクト課題に取り組んでいます。今年度は、「地域営農計画の策定支援」「担い手を対象にした法人化支援」「高収益作物に向けた支援」「鳥獣害対策支援」を行っています。

5月26日に推進委員や担い手部会の役員を来訪し、高収益作物の品目や法人化などについて聞き取り調査を行いました。また、「しもまやま通信」と題した地域通信を発行し、地区内での情報共有を行うこととしました。

6月からは、定期的に宮城県農業経営・就農支援センターと連携した法人化に向けた研修会を開催するとともに引き続き担い手からの聞き取り調査を進めてまいります。

### ○関係機関とともに認定新規就農者サポート巡回を行いました

令和4年6月27日

巨理農業改良普及センター



令和4年6月23日に農業次世代人材投資事業(経営開始型)の交付を受けた就農1~5年目の認定新規就農者を対象に名取市・J.A・農業委員会・金融機関と連携しサポート巡回を行いました。

巡回の対象者は、就農初年目が3名、就農2~5年が6名の計9名で、巡回では、就農計画の達成状況や営農状況を確認し、認定新規就農者が早期定着できるよう関係機関それぞれの立場から助言や支援を行いました。

また、本年度からサポーターとして地元生産者にも参加いただき、先輩農業者の立場から栽培管理や農業に取り組む姿勢等をアドバイスしていただきました。

今年は春先から低温や雨天が続き、苦戦を強いられる場面が多くなってしまいましたが、意見交換の中で、「昨年より収量増加を目指し、早め早めの作業に心掛けたい。」と決意を新たにしていました。

普及センターでは、認定新規就農者が就農計画を達成し、次のステップに踏み出せるよう、関係機関と連携し、引き続き支援していきます。

### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

#### ○第1回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました 令和4年6月2日 巨理農業改良普及センター



巨理農業改良普及センター管内では、東日本大震災からの復興に取り組む中で、水田の大区画化が進み、土地利用型農業を営む経営体の規模が大幅に拡大しました。これらの経営体は稲作の作業時期の分散化や省力化を求めており、それを実現する技術として水稲乾田直播栽培を導入する経営体が増加しています。

令和4年度は、昨年度から51ha増の235haの水田において乾田直播栽培が導入される見込みです。乾田直播栽培は移植栽培と異なる管理が必要で、出芽揃いや雑草防除が課題となっており、普及センターでは、栽培技術向上のため令和元年度から「水稲乾田直播栽培勉強会」を定期的に開催しています。

令和4年5月26日に今年度第1回目の勉強会を岩沼市の乾田直播栽培ほ場で開催しました。生産者16名の他、関係機関が参加し、出芽揃いを良好にするためのポイントや入水・雑草防除のタイミング等について、東北農業研究センターから助言を受けながら参加者同士、活発に意見交換が行われました。

また、宮城県古川農業試験場からは、今年度から会場としたほ場で実施している、作期拡大を狙った早期播種の実証試験の概要と生育状況等について説明いただきました。2月上旬に播種した早期播種ほ場では、慣行ほ場より約10日早く出芽が始まり、出芽本数は同程度となっていました。

今年度は、2回程度勉強会を開催し、課題解決に向けて支援していきます。

#### ○アグリテック活用農業推進セミナー(自動操舵システム編)が開催されました 令和4年6月9日 仙台農業改良普及センター



令和4年6月6日に令和4年度アグリテック活用農業推進セミナーが大郷町B&G海洋センターを会場に開催され、農業者及び関係機関合わせて90名の参加がありました。

当日は、ヤンマーアグリジャパン株式会社による「自動操舵システムの活用について」の講演並びにえだまめ栽培ほ場でのロボットトラクターによる耕耘及び自動操舵トラクターによる播種作業の実演が予定されていましたが、あいにくの雨で、実演会は中止となりました。

講演会では、若手農業者等から積極的に質問や要望が寄せられるなど、有意義なセミナーとなりました。また、ほ場での実演会の代わりに、大郷町文化会館の駐車場において、ロボットトラクター及び自動操舵トラクターの自動走行による直進、ターンの実演が行われ、参加者は雨の中、興味深くその様子を見学していました。

普及センターでは、今後、試験研究機関と連携してアグリテックの推進に努めてまいります。

### ④園芸産地の育成・強化支援

#### ○JAみやぎ登米ピーマン栽培現地検討会が開催されました 令和4年6月7日 登米農業改良普及センター



JAみやぎ登米では、新たな園芸品目としてピーマンの作付けを推進しており、令和4年は約1haの作付けが予定されています。新たに栽培を始める生産者も多いことから、苗の定植に合わせ、令和4年5月31日に現地検討会が開催されました。

現地検討会は、登米市豊里町のほ場を会場に、定植後の生育状況や今後の管理のポイントである肥培管理と整枝手順について確認しました。

普及センターでは、今後も検討会や講習会を通じて、ピーマンの安定生産とさらなる作付け拡大を目指していきます。

## ○JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました

令和4年6月7日

仙台農業改良普及センター



令和4年6月2日に、大和町のぶどう「シャインマスカット」ハウスを会場に、JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催され、部会員21名が参加しました。

当普及センターが講師となり、花穂整形作業、無核化処理等について説明を行いました。ぶどうハウス内では、実際に参加者とともに花穂の善し悪し等を確認しながら、整形方法や作業のタイミング等を学んでもらいました。また、昨年度実施した実需者ニーズ調査や消費者アンケート調査結果についての報告も行いました。部会では、今後、これらを元に、部会のブランド力向上に向けた活動をすすめる計画になっています。

普及センターでは今後も、高品質なぶどうの生産や産地PRに向けて、同部会を支援していきます。

## ○仙台地方農業振興推進会議を開催しました

令和4年6月7日

仙台農業改良普及センター



令和4年5月31日、管内市町村や農協等の関係機関が参集し、令和4年度仙台地方農業振興推進会議が県仙台合同庁舎で開催されました。

会議では、令和4年度補助事業の進捗状況、仙台・亶理農業改良普及センターの普及指導計画の概要、農地中間管理事業の推進について報告が行われました。

協議事項としては、みやぎ園芸特産振興戦略プランにおける仙台圏域の重点振興品目の追加について検討が行われ、新しく「ばれいしょ」、「スイートコーン」、「ブロッコリー」の3品目が承認されました。

また、市町村、JA等関係団体からも、本年度の主要事業の説明があり、今後とも関係機関で情報を共有し、仙台地方の農業振興の推進を図っていくとともに追加された品目の生産振興を図ってまいります。

## ○JAみやぎ亶理いちご育苗講習会を開催しました！

令和4年6月9日

亶理農業改良普及センター



令和4年5月23、24日にJAみやぎ亶理いちご部会主催の令和5年産いちご育苗管理講習会が支部ごとに行われ、合計で45名の生産者が参加しました。

講習会では、普及センターから親株の栽培管理のポイントとして、肥培管理、病害虫防除対策等について説明を行いました。令和4年産のいちごは、現在まだ収穫中ですが、生産者は次作に向けて、これから育苗管理を本格的に始めていきます。

JAみやぎ亶理における令和4年産いちごの販売実績(5/10時点)は、昨年との比較で数量99%、金額98%に上り、普及センターでは、今後も関係機関と連携し、いちごの産出額増加に向けて支援していきます。

## ○名取市花卉生産組合が生花店と連携してカーネーションの産地表示販売に取り組みました

令和4年6月13日

亶理農業改良普及センター



花きの分野においては、産地名を表示した販売が十分に行われていないため、消費者が購入する時には、産地を認識しづらい状況にあります。

そうした中、名取市花卉生産組合では、昨年カーネーションの産地表示販売の実証に取り組んでおり、今年も5月上旬の母の日前の需要期に、名取市や近郊の生花店9店舗と関係機関の協力を得て、のぼり旗やステッカーシール、産地紹介パンフレット等を活用した産地表示販売の実証を行いました。

販売実証を実施した後、組合員が関係機関と各生花店を訪問し、感触や来店客の反応を聞き取り、今後に向けた意見交換を行うなど、この実証を通じて、これまであまり接点が無かった生産者と生花店の交流機会が増えました。これにより、生産と販売が連携して地域の特産品を盛り上げていこうとする機運ができて始めています。

普及センターでは、花の産地表示販売の取組を今後も継続して支援してまいります。

### ○関係機関一体となって園芸特産振興を図ります 令和4年6月15日 石巻農業改良普及センター



令和4年6月10日に石巻合同庁舎において、令和4年度第1回石巻地域園芸特産振興会議を開催しました。この会議は石巻市、東松島市、及びJAいしのまき等関係機関の担当者が出席し、石巻地域の園芸振興策等を協議する場となっています。

今年度1回目の開催に当たり、参加機関から今年の園芸振興に係る計画を情報提供していただき、意見交換を行いました。県園芸推進課からは令和3年度から令和7年度まで計画している「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」について、当普及センターからは令和4年度に取り組む園芸関係のプロジェクト課題や重点・一般活動について説明しました。

両市やJAいしのまきからは、独自に取り組む事業の紹介が行われました。また、今回初めて参加いただいた株式会社石巻青果からは、市場が生産拡大を期待する品目としてピーマンを紹介いただきました。各関係機関の計画が共有されることで、令和4年度の活動を効果的に行えるための良い情報共有を図ることができました。

今後も、関係機関一体となって石巻地域の園芸特産振興を進めていきます。

### ○抑制かぼちゃの栽培講習会が開催されました 令和4年6月16日 栗原農業改良普及センター



令和4年6月8日(水)、JA新みやぎ栗っこの抑制かぼちゃ栽培講習会が、同JA瀬峰野菜集荷場で開催され、管内のかぼちゃ生産者16名、種苗会社、普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは、定植時期を逃さないように早めに畑作りを行うことや、催芽処理の方法などについて説明がありました。普及センターからは、病害虫の出にくい環境づくりを心がけることや、主要病害虫の特徴と対策について説明しました。また、防除に使用できる薬剤として、浸透移行性や耐雨性のある薬剤を提案し、適期散布を呼びかけました。

普及センターでは、JA新みやぎ栗っこのかぼちゃの安定生産に向けて、今後も継続して支援していきます。

### ○栗っこズッキーニ現地検討会が開催されました 令和4年6月16日 栗原農業改良普及センター



令和4年5月20日(金)、JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会の現地検討会が管内2ほ場で行われ、部会員17名、種苗業者、JA新みやぎ及び普及センターの担当者が出席しました。

各ほ場ともハウスと露地でズッキーニが栽培されており、生育ステージを確認しながら、この時期の生産管理や草勢維持のポイントについて種苗業者の担当者から説明がありました。また、普及センターからは病害虫対策を意識した環境づくりと防除のタイミング、次作に向けた土壌診断について説明しました。会場となったほ場では、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用し、生分解性マルチを使った環境負荷軽減の取組と立体栽培による品質の向上や軽労化等の検証を行うことにしています。

普及センターでは、ズッキーニの収量や品質の向上に向けて、今後も継続して支援していきます。

**○日本なしの防除講習会及び摘果研修会が開催  
されました**  
令和4年6月16日  
美里農業改良普及センター



「北浦梨」は美里町の特産で、大正時代から続くに産地です。現在は「幸水」、「豊水」、「あきづき」等、様々な品種が栽培されています。

J A新みやぎ北浦梨部会（部会員 38名）は、令和4年産の高品質な果実生産に向けて、5月25日に防除講習会と摘果研修会を開催しました。

午前中の防除講習会では、普及センターから重点防除病害虫の発生活長や生態等について説明し、部会で使用している防除暦と重点防除時期、薬剤散布時の注意点について再確認しました。

午後の摘果研修会では、普及センターから予備摘果と仕上摘果で残す果実の基準や目標着果数といった基本を説明し、その後に実際の花そうを見ながら、幼果の形や大きさ及び品種特性等を踏まえてどのように判断するかについて、参加者がお互いに意見を出し合いながら実技研修を行いました。

普及センターでは、引き続き高品質な果実の安定生産に向けた支援を行っていきます。

**○「くりはらマルシェ」ズッキーニ大好評でした**  
令和4年6月16日  
栗原農業改良普及センター



令和4年5月26日(木)、県庁1階ロビーで開催された「くりはらマルシェ」にJ A新みやぎ栗っこズッキーニ部会が出展し、ズッキーニの販売を行いました。

販売会では、生産者やJ A職員がサラダや炒め物など手軽な食べ方をお客様に説明し、栗原産ズッキーニをPRしました。新鮮で色つやのある外観が好評で、何本もズッキーニを買い求めるお客様が多く、用意した450本あまりのズッキーニは3時間ほどで完売しました。ズッキーニはこれから盛夏に向けて

本格的な出荷を迎えます。皆様もお近くのスーパーや栗原市内の農産物直売所で、ぜひ栗っこズッキーニをお買い求めいただき、召し上がってみてください。

普及センターでは、今後も生産者や関係機関と連携しながら、ズッキーニの産地育成と消費拡大に向けた支援を行っていきます。

**○南三陸町でシャインマスカット栽培研修会を開催  
しました**  
令和4年6月17日  
気仙沼農業改良普及センター



管内ではシャインマスカットの栽培が拡大しており、新規栽培希望者も増加しています。そこで、シャインマスカット安定生産のための栽培技術向上を目的に、令和4年5月31日に南三陸町においてシャインマスカット栽培研修会を開催しました。管内のぶどう栽培者及び栽培希望者19名が参加しました。

宮城県農業・園芸総合研究所花き・果樹チームの庄子雅和研究員が講師となり、花穂整形、ジベレリン処理、摘粒などの今後の栽培管理のポイントや注意点について実演を交えながら説明を行いました。参加者からは栽培管理の他、品種や収穫後の品質保持、鳥獣対策等について多くの質問が寄せられました。参加者は初めて知る技術や知識も多かった様子で、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

**○なとり・ぐるっと親子講座カーネーションアレンジメント体験が  
開催されました**  
令和4年6月17日  
巨理農業改良普及センター



名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市生活経済部農林水産課）が主催する、なとり・ぐるっと親子講座カーネーションアレンジメント体験が令和4年6月5日に開催され、亘理農業改良普及センターも運営支援のために出席しました。

参加した15家族約50名の親子は、名取市花卉生産組合が栽培したカーネーション、バラ等の地元産の切り花を花材として使用し、講師を務めた組合員の方々から説明を受けながら、思い思いにアレンジメントを作成し、花とのふれあいを楽しんでいました。

名取市花卉生産組合の針生組合長や名取市農林水産課職員の方から、市内の花き産地の紹介があり、参加した家族は地元の花き産地について理解を深めた様子でした。

普及センターでは、管内の花き産地の活動を今後も支援してまいります。

### ○JA名取岩沼ハウス胡瓜部会・抑制胡瓜栽培講習会を開催しました！ 令和4年6月17日 亘理農業改良普及センター



令和4年6月7日にJA名取岩沼本店を会場にJA名取岩沼ハウス胡瓜部会主催の抑制胡瓜栽培講習会が行われ、15名の生産者が参加しました。

令和4年産（1月1日～5月31日）までの促成栽培の出荷実績は、前年比で重量比90%、販売高比95%、単価比106%の状況で、1～4月までの低温、乾燥の影響で出荷量が伸びなかった報告がありました。

講習会では、埼玉原種育成会福島事務所の松本所長より、各産地の促成栽培の状況、今後の抑制栽培における栽培のポイントや品種の特徴について説明がありました。また、普及センターからは日射量を基準としたかん水の目安について説明を行いました。

参加した生産者からは、生育時期に応じたかん水の仕方など改めて考えるきっかけとなったなどの感想いただきました。普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上と安定生産に向けて支援していきます。

### ○みやざきどどんこ館で花きの新品目作付についての研修を行いました 令和4年6月17日 大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターでは、令和4年5月30日に、加美町にあるみやざきどどんこ館と連携し、花きの新品目作付についての研修を行い、産直部会のうち13名が参加しました。今回は、1月の研修会で会員から栽培をしてみたいと要望があった、「ケイトウ」、「ジニア（ヒャクニチソウ）」について、栽培方法を確認するとともに、実際には種を行いながら、育苗について情報交換を行いました。これまであまり栽培していなかった品目にチャレンジし、花きの作付を拡大する予定です。

今後は普及センターで定期的に会員のは場を巡回することで栽培状況の確認を行う予定です。

普及センターでは、今後も大崎地域の花き栽培の支援に取り組んで参ります。

### ○ズッキーニの出荷査定会が開催されました 令和4年6月20日 栗原農業改良普及センター



令和4年6月3日（金）、6日（月）、9日（木）の3日間にわたって、栗原市金成・志波姫・若柳・瀬峰の各野菜集荷場でJA新みやざき栗こズッキーニ部会の出荷査定会が開催され、24名の部会員が出席しました。

最初に、当日出荷されたズッキーニを見ながら出荷規格を確認し、自主検査のポイントや、箱詰め方法などについて、活発な意見交換が行われました。

次に、普及センターからは、梅雨入りに際して、排水対策、摘葉や立体栽培による風通しの改善、病害虫防除のポイントについて、説明を行いました。最後に、JA担当者からズッキーニの販売情勢、交配作業の注意点について説明がありました。出席者は今後の栽培管理のポイントを再確認したようでした。

普及センターでは、JA新みやざき栗こズッキーニの安定生産・良品出荷に向けて、今後も継続して支援していきます。

## ○クロマツ栽培の現地指導会・交流会を開催しました

令和4年6月 20日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年6月14日、南三陸町志津川のほ場を会場に、クロマツ産地である茨城県の生産者（3名）と県内クロマツ栽培希望者（12名）参加による現地指導会・交流会を開催しました。

今回の現地指導会は、茨城県の生産者と（株）南三陸 Pine Pro（パインプロ）後藤代表の両者が、栽培管理等に関する情報を多くの人に伝えたいとの思いから、県内のクロマツ栽培希望者を対象に園芸推進課、気仙沼農業改良普及センターの共催で開催しました。

（株）南三陸 Pine Pro が栽培しているクロマツのほ場を見ながら、茨城県の生産者から収穫するまでの管理方法について指導を受けました。

栽培希望者からの質問に対し、茨城県の事例を元に回答がありました。

質疑応答では、参加者から熱のこもったたくさんの質問が出ましたが、何十年とクロマツを栽培してきた生産者からの確かな回答が得られ満足した様子でした。

普及センターでは、クロマツ生産拡大のために先進地との交流や現地検討会などを開催しながらクロマツ生産を支援していきます。

## ○元気くん市場仙台南店において、栗原ズッキーニをPRしています

令和4年6月 24日

栗原農業改良普及センター



**万能食材 ズッキーニ活用レシピ**

ズッキーニは夏野菜の王様。栄養豊富で、調理法も簡単。お弁当にも最適です。

●ズッキーニの栄養成分表

成分	100gあたり
エネルギー	45kcal
たんぱく質	1.0g
脂質	0.2g
糖質	7.5g
食物繊維	0.5g
水分	89.8g

●ズッキーニの調理法

①ズッキーニは洗って、ヘタと種をとり、縦半分に切ります。

②フライパンに油を熱し、ズッキーニを皮を向いて並べ、中火で約5分焼きます。

③焼きあがいたら、塩をふりかけ、お好みでソースや調味料を加えます。

**抽選で5名様に栗原ズッキーニ1箱が当たる！**

**栗原ズッキーニももっとキャンペーン**

応募期間 R.6/18(土)～7/5(火)

公式Instagramアカウントでいいねくらゐら！  
@hishimachi (hishimachi) をフォローの上  
@hisahara-zucchini を検索し、投稿してください。  
抽選で5名様に栗原ズッキーニ1箱が当たるキャンペーンを開催中！

抽選日には後日DMでお知らせ！

主催 気仙沼農業改良普及センター  
電話 0228-52-8437

栗原産ズッキーニについては、特に露地ものの収穫量が増える6月頃から、生産者やJA等と連携して、PRを進めていくこととしています。

今年のPRでは、知名度向上と販売促進を目的に、令和4年6月18日から7月5日までの期間、元気くん市場仙台南店の売場でズッキーニを使った夏のイメージに合うレシピを配布するとともに、Instagramを活用した、ズッキーニ料理写真の応募により抽選で景品が当たるキャンペーンを実施しています。

ぜひ、みなさんもズッキーニ料理に挑戦していただくとともに、自慢のズッキーニ料理をInstagramに「#栗原ズッキーニキャンペーン」を付けて投稿してみてください。

## ○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会栽培講習会が開催されました

令和4年6月 27日

美里農業改良普及センター



6月17日（金）に仙台小ねぎ部会の栽培講習会が開催されました。例年、この時期はスリップス等の害虫被害の対策が重要視され、防除対策の講習が多かったのですが、今年は折からの肥料価格高騰の状況が懸念されたため、施肥や土づくりをテーマとして研修が行われました。

（株）水沢種苗からは、一般的な堆肥の種類や施用時の注意点、微生物資材と有機物施用による連作障害対策、腐植酸資材による肥料成分の吸収促進などについて解説がありました。

普及センターからは、土壌診断による適正施肥の重要性や窒素単肥による施肥量削減、地域で安価に入手できる有機質資材を活用した施肥設計、緑肥のすき込みによる土づくり、改良を加えた太陽熱土壌消毒の実証結果などについて情報提供しました。

講習会には部会員の約6割が出席し、関心の高さが伺われました。終了後も複数の生産者が会場に残り相互に情報交換を行っていました。

普及センターでは、これまでの土壌診断結果に基づいた施肥設計に加えて、家畜ふん堆肥や緑肥の有効活用による土づくりを推進し、肥料費低減と反収向上の両立に向けて支援していきます。

**○抑制きゅうり栽培講習会が開催されました**  
令和4年6月28日  
栗原農業改良普及センター



令和4年6月15日(水)、JA新みやぎ栗っこきゅうり部会の抑制きゅうり栽培講習会がJAの志波姫支店会議室で開催され、部会員13名、講師として、種苗メーカー2社及び普及センターの担当者が出席しました。栗っこきゅうり部会では、促成栽培と抑制栽培を組み合わせ、3月から12月まで出荷を行っていますが、本講習会は8月に定植を迎える抑制栽培の栽培技術向上を目的に開催されました。

はじめに、種苗メーカーから天候に合わせた今後の管理や、抑制栽培で推奨する品種の特性について説明がありました。次に普及センターから、病害虫防除のポイントとして、梅雨時期に発生が多い病害虫の特徴と対策や、薬剤の抵抗性発達を防ぐため、RACコード(農薬の作用機構分類)を参考にしながら、系統の異なる薬剤をローテーションで散布するよう説明しました。参加者は、梅雨入り後の栽培管理や、抑制栽培で用いる品種について、知識を深めました。

普及センターでは、同部会員のきゅうりの栽培技術向上に向けて、今後も継続して支援していきます。

**○オリーブ栽培指導が開催されました**  
令和4年6月30日  
石巻農業改良普及センター



令和4年6月22日(水)に、株式会社アライオリーブ(香川県)の荒井代表取締役を講師に、河北大川地区、北上立神地区、北上原地区の3か所のは場でオリーブ栽培指導が開催されました。開花期前後の病害虫防除、移植後の管理、施肥について指導があり、講師からはせん定や仕立て等の栽培管理は適切に行われており、生育は順調とのコメントをいただきました。

普及センターからは令和4年のオリーブ栽培暦を配布し情報提供を行いました。

石巻市では平成26年からオリーブの栽培が行われています。栽培面積は令和4年3月時点で4haあまりとなっています。当初密植で植栽したほ場では、今春以降、樹冠の拡大に伴い移植され、面積を拡大しているところです。現在の生育状況は前年より1週間程度遅れていますが、開花始期となっています。

今後とも普及センターでは病害虫防除等の栽培技術について支援を行っていきます。

**○山元地区野菜生産出荷組合芽キャベツ栽培講習会を開催しました**  
令和4年6月30日  
亶理農業改良普及センター



令和4年6月21日にJAみやぎ亶理南部営農センターを会場に同JAの山元地区野菜生産出荷組合が主催する芽キャベツ栽培講習会が行われ、7名の生産者が参加しました。

講習会では、普及センターから「芽キャベツ」の栽培管理をはじめ、農薬使用時の注意点、土壌分析結果に基づく施肥方法などについて説明を行いました。

JAみやぎ亶理管内では、「芽キャベツ」をはじめとする「ゆきな」や「しゅんぎく」などの葉菜類の生産が盛んに行われています。栽培講習会では、土壌診断の結果を見ながら減肥や単肥の施用について助言し、農業資材費の高騰による生産コストの上昇を軽減できるような指導を行いました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、安定した野菜生産に向けて支援していきます。

**⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援**

**○令和4年産水稻の生育調査が始まりました**  
令和4年6月8日  
大崎農業改良普及センター



令和4年6月1日に令和4年産水稻の第1回目の生育調査を行いました。

県内9普及センターでは、稲作生産者に適切な栽培管理を指導できるよう、それぞれの地域で生育調査を実施しています。大崎農業改良普及センターでは宮城県の主要4品種（ササニシキ、ひとめぼれ、だて正夢、金のいぶき）を含め、計8品種、10地点を調査しています。

今回はテレビ取材もあり、取材に対して、「本年の水稻は田植え後の強風の影響もありましたが概ね順調です。今後は、茎数確保のための水管理を徹底していただきたい」と説明しました。

普及センターでは水稻の安定生産に向け今後も調査を行い、技術支援をしていきます。

## ○子実用とうもろこしの試験的な栽培を進めています

令和4年6月9日

石巻農業改良普及センター



令和4年5月25日に石巻市桃生で子実用とうもろこしの播種作業が行われました。

子実用とうもろこしは水田の新たな転作作物として栽培が進められている作物であり、主に飼料用としての活用を考えています。子実用とうもろこし自体がまだ新しい取り組みであるため、今年度は地域に合わせた栽培方法や収益性などを明らかにするための試験的な栽培を進めています。

今回、子実用とうもろこしの播種をしたのは(株)入沢ファームと(有)サンダーファーム牛田の2法人で、現地には農研機構東北農業研究センター、古川農業試験場、農業・園芸総合研究所、当普及センターの職員が集まり、生産者や農協職員と話し合っただ条間・株間・播種深度等を調整しながら、播種しました。

今後は当普及センターでは子実用とうもろこしの生育調査を行い、転作作物としての有用性を検討していきます。

## ○「吟のいろは」通信を発行しました！

令和4年6月9日

美里農業改良普及センター



令和元年に新しい酒造好適米としてデビューした「吟のいろは」は、「蔵の華」に続く県オリジナル品種です。淡麗ですっきりとした味わいに仕上がる「蔵の華」に対し、「吟のいろは」はやわらかくふくらみのある味わいに仕上がるということで、実需の方々からも期待が寄せられています。

大崎東部地域では、大崎市松山地区を中心に「吟のいろは」が県内で最も多く作付されており、これまでも生産者と共に生育調査を行うなど品質向上を目指してきました。

今年度は普及センターのプロジェクト課題を設定し、安定生産と品質の向上を図ると共に、主に実需者の方に対し、生育等に関する情報を「吟のいろは」通信として生産者・県酒造組合等に提供するほか、ホームページで公開しています。

普及センターでは、生産者や地域の関係機関と共にプロジェクト課題に取り組み、積極的に情報を発信していきます！

## ○令和4年度仙台地方米づくり推進本部会議が開催されました

令和4年6月16日

仙台農業改良普及センター



令和4年5月31日（水）、令和4年度仙台地方米づくり推進本部会議が開催され、管内の市町村、農協等関係機関が参集しました。

会議では、今年度の仙台地方米づくり推進基本方針及び事業計画について事務局から説明がなされ、昨今の米を巡る情勢を踏まえて決定した今年度の重点推進事項や普及センターでの主な取組等について確認しました。また、JAから生産の目安の達成見込等米づくりの取組について情報提供があり、関係者で共有しました。

普及センターでは今後とも農業関係機関・団体の連携のもと、需要に応じた米づくりの実現に向けて現地活動等に取り組んでいきます。

## ○迫稲作経営部会の第1回現地検討会が開催されました

令和4年6月20日

登米農業改良普及センター



令和4年6月16日に、JAみやぎ登米迫稲作経営部会の第1回現地検討会が開催され、稲作部会員、農薬メーカー等担当者、関係機関を含めて18人が参加しました。

JAみやぎ登米では、各地区の稲作部会で様々な試験を実施しており、今回は、迫地区で実施されている除草剤展示試験の効果の確認とイネの生育状況を把握するために開催されました。

部会員4人のほ場を巡回し、移植時に発生していた雑草が枯死し新たな雑草の発生もほとんど見られないことを確認しました。除草剤の効果に加えて低温の影響と大雨が続く深水で管理されていたことも抑草につながったと考えられました。イネの生育は低温寡照の影響で例年より遅れていました。

現地巡回の後、JAみやぎ登米迫営農経済センター敷地内において総合検討を行い、普及センターからは今後の肥培管理のポイントについて助言を行いました。

迫稲作経営部会では、7月にも第2回現地検討会の開催を予定しています。

普及センターでは、今後も良質な米づくりの推進に向けた支援を行ってまいります。

## ○穂水分測定で、小麦の適期刈取を支援

令和4年6月20日

美里農業改良普及センター



美里普及センター管内は麦類の栽培が盛んな地域です。令和4年産の大麦は74ha、小麦は696haの作付面積となっており、小麦は県内産の約7割となっています。

米の生産調整や食糧事情から国産小麦が注目されていますが、刈取適期が梅雨時期にあたり、かつ4～5日程度と短いため、収穫のための事前準備が重要になります。

そこで、刈取適期を把握するため、JA新みやぎみどりの地区本部と普及センターが協力し、毎年6月中旬に小麦の穂水分測定を実施しています。これは、出穂25～30日後頃から穂の水分が約1.5%/日ずつ減少していくという性質を利用し、採取直後と105℃で24時間乾燥後の水分差を計算して成熟期(穂の水分が40%になる時期)、及び刈取適期(成熟期から3日後)を判断する方法です。

4年産小麦については、管内各地区から採取された85点を普及センターで乾燥し、測定を行い、最も早いほ場で6月20日頃、遅いほ場では7月2日頃が成熟期に達すると見込まれ、好天で出穂が早まった3年産より6日程度遅くなる結果となりました。この結果は、6月21日から管内各地区で開催する現地検討会で生産者に説明し、適期刈取について呼びかけることにしています。

高品質な小麦生産に向けた栽培のため、普及センターは、今後もJA等と連携して栽培への助言を継続していきます。

## ○飼料用作物展示ほにおける展示が始まりました

令和4年6月21日

大河原農業改良普及センター



大河原管内では、生産性の高い飼料用とうもろこし奨励品種の普及拡大を推進するために、飼料用作物の展示ほを蔵王町遠刈田温泉東集団に設置しています。今年度は、早中生種のスノーデント115(メーカーRM:115)とパイオニア118日(メーカーRM:118)の2品種を展示しています。また、宮城県内のすべての飼料用とうもろこしの展示ほにおいてスノーデント115を展示し、各地域での生育状況、収量等を調査することとしています。

当管内の展示ほは、5月20日に播種し、5月31日時点で出芽している状態です。今後、播種後40日となる6月29日頃に初期生育調査を行う予定です。

普及センターでは飼料用作物の安定生産に向け今後も展示ほの調査を行い、生産技術の助言や生育状況の情報発信をしていきます。

## ⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

### ○品質の高い大豆や大豆種子の安定生産を支援します！

令和4年6月1日

石巻業改良普及センター



令和4年5月24日に石巻市北村の遊学館において、JAいしのまき主催の大豆栽培研修会が開催されました。JA全農みやぎの佐野氏より「宮城県の大豆情勢について」、当普及センターの岩間技師より「令和3年産大豆の総括及び令和4年産大豆栽培のポイントについて」及び「大豆種子の情勢について」という内容で行われました。世界の大豆は、生産量、消費量ともに増加していること、国内では国産大豆の味や品質が評価され、需要が高まっていることなど説明がありました。

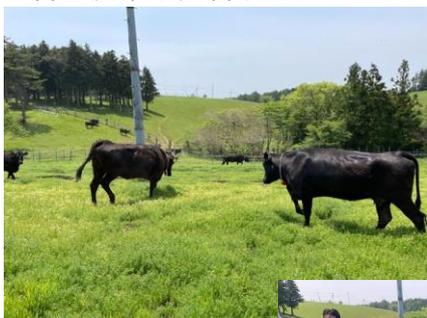
また、栽培技術については、基本技術（①播種②肥培管理③排水対策④中耕培土⑤雑草対策⑥病害虫対策）の励行が重要であること、「すずみのり」が新しく優良品種として指定されたこと、種子の情勢では、ほ場審査や生産物審査の基準や優良種子の生産のポイント（①交雑対策②漏生対策③異株抜き④病害虫防除⑤中耕培土⑥調製）について説明されました。

当日は、生産者やJAの営農指導員ら関係者約50人が参加して聞き入っていました。当普及センターでは、管内で生産される大豆や大豆種子の高位安定生産を支援していきます。

### ○石巻市河北上品山牧場にて牛の入牧が始まりました！

令和4年6月3日

石巻農業改良普及センター



令和4年5月20日に石巻市河北上品山牧場にて牛の入牧が始まりました。

上品山牧場は今年で開場50周年を迎える歴史ある牧場であり、上品山（標高466m）に拓かれた放牧場にて5月20日から10月28日までの161日間放牧が行われます。今年は管内の生産者8人が育てた25頭の牛が採血や体重測定の後放牧されました。

放牧された牛は、広々とした放牧場に放たれ、気持ちよさそうに駆け回っていました。

今後も牛の健康を維持するため、定期的に体重測定等衛生検査が実施されます。

### ○酒米サポーターズクラブの田植え体験会が開催されました

令和4年6月6日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年5月28日、気仙沼市廿一（にじゅういち）地区の酒米体験田で、「蔵の華」の田植えが行われました。

酒米サポーターズクラブは、同地区で酒造好適米「蔵の華」を栽培する清流「蔵の華」廿一会の取り組みを支援する市や酒造会社、県内外の一般市民で構成されており、今年で21年目を迎えます。

同地区での酒米栽培を継続してきましたが、田植え体験会は、過去2年間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止を余儀なくされてきました。今年は41名が参加し、昔ながらの手作業での田植えを復活させることができました。参加者は、田植え定規で印をつけた田んぼに、手植え用として機械移植用より大きく育てられた苗を一株一株丁寧に植え付けました。

収穫された酒米は市内の酒造会社2社（男山本店、角星）に出荷されます。参加者は自分が植えた稲がおいしい日本酒になることに思いをはせながら、山や川に囲まれたのどかな地域での田植えを楽しみました。

普及センターでは、栽培研修会の開催などとおし、地域に根ざした農業の取組となる同会の酒米栽培について、さらなる多収・高品質化を支援していきます。

## 2. 持続可能な農業・農村の構築

### ①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

#### ○どんなアートになるか楽しみです

令和4年6月6日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年5月28日、南三陸町志津川廻館地区の約50アールの水田で、田んぼアートの田植が行われました。田んぼアートを企画したのは廻館営農組合で、今年で5回目になります。

当日は、子供連れの家族や高校生のグループ、町や農協の職員等約50人が参加しました。今年も、南三陸町のマスコットキャラクター「オクトパス君」になるよう、目印となるテープを張り、そのテープに沿って苗を植えました。特に子供達は田んぼの泥に足を取られながらも、一生懸命に稲の苗を植え、どんな出来栄になるか楽しみな様子でした。

今回、田植えをした水田は、南三陸町震災復興祈念公園に令和2年10月に完成した「祈りの丘」からよく見える場所にあります。祈念公園は、地元の観光スポットである「さんさん商店街」の裏側にありますので、立ち寄った際には是非、みんなで植えた「オクトパス君」がどのような姿に成長するかご覧ください。

#### ○色麻町のシャクヤクの指導を行いました

令和4年6月8日

大崎農業改良普及センター



色麻町の愛宕山公園では、大輪のシャクヤクが満開となりました。過去2年間は、新型コロナウイルス感染症対策として人が密集しないように花が摘み取られていましたので、念願の開花となりました。本年もシャクヤクまつりの開催は中止となりましたが、園内の散策は出来、大輪のピンクや白の綺麗なシャクヤクを楽しむ多くの方にご来訪して頂きました。

普及センターでは、土壌病害対策の情報提供等に取り組んできました。引き続き、色麻町の取り組みを支援していきます。

#### ○令和4年度鳥獣被害対策に係る仙台地域連携会議を開催しました

令和4年6月9日

仙台農業改良普及センター



仙台管内の鳥獣による農作物被害額は、6千万円を超えており、その72%がイノシシの被害となっています。各市町村においては、国の交付金等を活用して、侵入防止柵の整備や捕獲の推進、出没しにくい環境の整備など総合的な被害対策の推進が行われています。

このような中、各圏域において、市町村やJA等の関係機関による情報共有や課題抽出を行うため、今回初めて仙台地域連携会議を5月31日に開催しました。

会議では、事務所から管内における鳥獣害対策の現状・対策等の説明を行い、各市町村等からは、被害や対策の状況等を説明してもらいました。市町村からは、交付金が足りていないことやイノシシの捕獲頭数が減っていること、捕獲者への手厚い支援等の説明があったほか、ICTを活用した各種箱わなの設置により、捕獲者の負担がかなり減っているという先進的な取組の説明などもあり、有意義な情報交換となりました。

今後も、普及センターでは、各市町村等と連携を行い、農作物の鳥獣被害軽減に向け、取り組んでまいります。

#### ○登米市沢田集落と石巻専修大学との交流会が開催されました

令和4年6月13日

登米農業改良普及センター





登米市津山町柳津にある沢田集落は、北上川沿いの丘陵地に位置する自然豊かな集落です。この集落では、約20年前から棚田を利用したとうもろこしの栽培に取り組んでおり、令和元年度からはとうもろこし栽培をきっかけとした都市との交流を行い、地域の活性化を図っています。

今年度は石巻専修大学の学生との交流が計画されており、令和4年6月7日に第1回目の交流会が開催されました。当日はとうもろこし「味来」の苗の植え付け作業が予定されていましたが、あいにくの雨模様で作業は中止となり、代わりに地域の公民館で座談会が行われました。

座談会では普及センターからとうもろこし栽培に関する説明を行い、学生からはスイートコーンと家畜の飼料用となるデントコーンの違いや「味来」の味の特徴に関する質問がありました。また、学生から集落の阿部代表へとうもろこしを使った商品開発や農業体験ツアー、SNSを活用した情報発信などの提案もあり、とても活発な意見交換が行われました。

今後も沢田集落と石巻専修大学との交流は続きます。

## ②環境に配慮した持続可能な農業生産

### ○「スマート農機の現地講習会」が開催されました

令和4年6月20日

大崎農業改良普及センター



令和4年5月25日に、大崎市鳴子温泉の水田で「スマート農機の現地講習会」が開催されました。

主催である大崎市有機農業・グリーン化推進協議会では、環境にやさしい水稲栽培の普及拡大を目指し、アイガモロボによる雑草防除や、水位センサーとラジコン除草機による農作業の軽労化などのスマート農機の実証試験を市内6か所で実施しています。

本講習会では協議会メンバーである生産者や関係機関が参加し、それらの農機器の使用方法等について開発者やメーカーからの説明を受けました。

講習会終了後、実証試験の調査内容や作業実績の記録方法について協議会事務局と普及センターから

説明し、今後の管理を協議会メンバー全員で確認しました。

普及センターでは、水田雑草や水稲生育状況の調査・分析を実施し、効果的な栽培方法を検討し、持続可能な農業生産の実現に向けた取組を支援していきます。

### ○麦の収穫時期の現地検討会が開催されました

令和4年6月23日

石巻農業改良普及センター



J A いしのまき主催の麦現地検討会が開催されました。石巻市石巻地区(5/25)、桃生地区(6/6)、河南地区(6/7)、河北地区(6/9)いずれの検討会でも10人程度の生産者が参加し、ほ場を巡回しながら麦の子実水分を計測し、収穫適期の検討を行いました。雨の中での検討会となった地区もありましたが、刈取時期について積極的な意見交換が行われました。

収穫が早いと、登熟不足によって子実重の低下や空洞麦による品質の低下につながり、収穫が遅くなると発芽粒や退色粒の発生による品質の低下につながるため、適期に刈取を行うことが大切です。麦の収穫後はすぐに大豆の播種が始まり忙しい時期が続くため、普及センターからは麦の収穫適期判断と共に農作業安全についても呼びかけました。

現在、梅雨の晴れ間をぬって大麦の収穫作業が行われており、小麦の収穫も6月下旬頃からスタートします。普及センターでは今後も多収高品質の麦生産を支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.185

発行日:2022年7月21日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp